

11 防災航空業務の実態

(1) 防災航空体制

ア 導入の経緯

当県は、海拔 0mから 3,000mまでの変化に富んだ地理的条件下にあり、常に様々な自然災害に見舞われてきた。災害に強い安全な県土づくりとともに、防災体制の強化を図り、県民の安全な暮らしを確保することは重要な課題である。

こうした中で、平成 6 年 4 月に防災ヘリコプター「若鮎 I」の運行を開始し、火災・救急救助、救援物資の搬送等各種活動を行ってきた。

平成 9 年 4 月からは「若鮎 II」を導入し 2 機体制としたことにより、点検等による運行不能日を極力無くすとともに、山岳救助や緊急時の大量輸送等、消防防災体制の充実を図った。

このように、防災ヘリコプターの需要が高まる中、平成 21 年 9 月 11 日、北アルプス・奥穂高岳で救助活動中の「若鮎 II」が墜落し、3 名の尊い同僚の命が失われた。

事故後、安全管理体制の徹底を図り、安全運航を基本理念とした運航体制を構築して「若鮎 I」の運航を実施することとした。

また、防災ヘリコプターは、捜索救助・火災防ぎよなどにおいて重要な役割を担っていることから、防災ヘリコプターの 2 機体制を維持することにより県民の安全・安心を確保するため、「若鮎 III」を平成 23 年 3 月に導入し、平成 23 年 11 月から運航を開始している。

イ 活動内容

- ・ 火災防ぎよ活動
- ・ 山岳・水難事故等における検索、救助
- ・ 傷病者等の救急搬送
- ・ 各種災害における被害状況の把握、情報収集
- ・ 各種災害における救援物資、人員及び資機材等の搬送
- ・ 広域災害応援活動
- ・ 各種防災訓練等への参加
- ・ 災害等予防広報

ウ 防災ヘリコプター概要

機名	若鮎 I	若鮎 III
型式	川崎式 BK117B-2	ベル式 412EP
国籍及び登録番号	JA6724	JA119V
全長	13.00m	17.10m
主回転翼直径	11.00m	14.00m
全高	3.85m	4.60m

エ 主な装備品

空中消火装置、担架装置、ホイスト装置、リペリング装置、サーチライト、機外拡声器、カーゴフック等

オ 応援協定

大規模災害時及び、耐空検査等による運行不能時における救援活動等を速やかに行うため、近隣県と協定を締結し、災害時等の応援態勢の強化を図っている。

- ・ 災害応援協定に関する協定（中部 9 県 1 市応援協定）
- ・ 岐阜県・滋賀県航空消防防災相互応援協定（滋賀県）

- ・ 富山県・長野県・岐阜県航空消防防災相互応援協定（富山県、長野県）
- ・ 四県一市航空消防防災相互応援協定（愛知県・三重県・名古屋市・静岡県）
- ・ 石川県・岐阜県航空消防防災相互応援協定（石川県）
- ・ 福井県・岐阜県航空消防防災相互応援協定（福井県）
- ・ 災害航空応援協定（川崎重工業、セントラルヘリコプターサービス（旧カワサキヘリコプターシステム））
- ・ 災害支援協力に関する協定（岐阜県ゴルフ連盟）

力 場外離着陸場

航空自衛隊岐阜飛行場以外に、ヘリコプターの離着陸場として公園、河川敷、運動場、病院など、県内 82ヶ所（平成 23 年 12 月 31 日現在）を確保している。病院関係では県立多治見病院、中濃厚生病院、岐阜大学医学部付属病院、県総合医療センター、岐阜赤十字病院、大垣市民病院の屋上にヘリポートを備えている。さらに、災害時等に備えて、小中学校等の運動場や公園などを緊急離着陸場として指定している。

（2）平成 23 年の主な活動内容

平成 23 年の活動としては、緊急運航に 132 回 131 時間 56 分、自隊訓練に 209 回 303 時間 29 分、市町村等参加訓練に 40 回 37 時間 20 分、行政利用に 7 回 7 時間 25 分、その他（試験飛行等）に 45 回 65 時間 17 分、延べ 440 回 630 時間 12 分の活動を行った。

（3）防災航空隊の応援要請にかかる手続きについて

1 出場要請（消防本部→防災航空センター） 電話 058-385-3772
FAX 058-385-3774

- 2 要請の報告（防災航空センター→防災課）
- 3 出場の決定（運航管理者→防災航空センター）
- 4 出場の回答（防災航空センター→消防本部）

回答内容

- ・ 航空隊側の指揮者氏名
- ・ 無線の使用周波数・コールサイン
- ・ 到着予定時間
- ・ 活動予定時間
- ・ その他必要事項

5 出場

※ 夜間の受付（17：15～8：30）は、岐阜市消防本部（指令室）で受付を代行します。

電話 058-262-8151
FAX 058-266-8155

